

今後の在宅医療検討部会ワーキンググループの運営について

1 概要

令和6年度に設置し、これまで6回開催してきた本ワーキンググループでは、主に大塚圏域の医療・介護・福祉専門職及び地域支援者を中心に参加いただき意見交換を行ってきたところであるが、様々な意見を踏まえ、「2040年に向けた在宅医療・介護の共通の方向性」、「共通の方向性を踏まえた5年後の具体的目標」、「今後の施策の方向性」をまとめるなど、一定の成果を得ることができた。

そのため、一度、位置付けやメンバー構成の見直しなど発展的解消を図ったうえで、令和8年度以降も継続的に開催していく予定である。

2 今後のワーキンググループの位置付けについて

国の指針では、①退院支援、②日常の療養支援、③急変時の対応及び④看取りの4つの医療機能の確保に向けて、「在宅医療に必要な連携を担う拠点」を医療計画に位置付けることとされている。それに基づき、東京都では、在宅医療・介護連携の取組を推進している区市町村を「在宅療養に必要な連携を担う拠点」として位置付けているため、文京区が拠点の役割を担うこととなっている。

拠点の役割として、地域の医療及び介護、障害福祉の関係者による会議を定期的に開催し、在宅医療における提供状況の把握、災害時対応を含む連携上の課題の抽出及びその対応策の検討等を実施することが求められていることから、当該関係者が一堂に会している本ワーキンググループの場を引き続き活用していくものとする。

3 次回以降の構成メンバーについて

これまでは大塚圏域の関係者を中心に参加いただいていたが、今後は、特定の圏域に拘らず、区全体で在宅療養を取り巻く課題について検討する必要があることから、区と在宅医療検討部会長との事前調整を行ったうえで、大塚圏域以外の圏域の方にも幅広く参加いただく予定である。ただし、現在の委員の方についても、事前に意向を確認したうえで引き続き参加いただくこともあり得る。

なお、東京都から「在宅療養において積極的役割を担う医療機関」に指定されている「神楽坂ホームケアクリニック」の久保院長、「コーラルクリニック」の石垣院長はメンバーとさせていただく予定である。

4 令和8年度開催回数（予定）

3回程度